

2025
Jun.
VOL. 1



なのはな生協

NEWS LETTER



第53回通常総代会議案ダイジェスト

6月16日(月)に第53回通常総代会が開催されます。通常総代会は1年に1回、組合員の代表(総代)が集まり、生協の方針などを決定する最高機関です。今回の通常総代会で提案される内容の一部を報告いたします。

2025年度活動報告



今年度は、なのはな生協が設立され50年を迎える年となりました。その記念として記念レセプションや50周年記念セール、なのはなメッセを開催しました。

10月26日に幕張メッセにて、50周年記念イベント「みんなの想いを込めて 伝えたい 伝えよう なのはなメッセ」を開催しました。組合員と取引先の交流は2018年の生協まつり以来となり、出店社も60を超える交流イベントとなりました。当日は買い物に試食、ブースでは取引先による体験イベントが開催され、笑顔が生まれる交流となりました。また、ステージではどこを切っても同じ絵柄が出る『切り出し蒲鉾』の実演や『丸鶏の解体』『納豆のばし選手権』を開催しました。1,300名を超える来場者があり商品訴求を行うことができました。

組合員活動が供給活動につながるように食を中心に安全性や優位性を伝えるため、生産者との交流の機会を増やし共に安全・安心を考え「食を伝える活動」「生活文化向上のための学習会」「体験型イベント」等を行いました。

本部主催では『知ってみよう!食べてみよう!シガポートリー』の生産者交流会を開催し、飼育現場や飼料についてパネル等を用いて市販品との違いや商品のこだわりを学び、安全な鶏の味も確かめ商品の良さを実感していただきました。エリア会では4つのエリアで組合員が中心となり開催されました。

平和が脅かされている現状を踏まえ、親子で平和について考える機会として、7月にはDVD上映会「夏服の少女」と被爆体験を聞く会、東京大空襲・戦災資料センターと第五福竜丸展示館の見学を行いました。安全で安心な生活には核のない平和な世界が必要不可欠であることを学びました。

事業面では供給高は20億3,838万円となり、前年比100.9%となりました。組合員拡大では1,017名の加入があり、生協の輪が広がりました。

『令和の米騒動』と呼ばれ、なのはな生協への米の受注は増加しました。農産品では欠品を出さないように、生産者とも話し合い、予定していた産地が出荷できない場合は、別の代替産地で栽培方法を変更してお届けするように変更しました。夏場の高温対策として、野菜や果物の冷蔵流通を4月1回から始めました。

2025年度活動計画

私たちは生産者との顔が見える関係を大切に、安全で安心な食材を提供していただける生産者を守っていく必要があります。生産を維持していけるような時も商品を買いつけ買い支える必要があります。その活動こそがなのはな生協が長年、訴えて続けてきた顔が見える関係です。自分たちの暮らしを守るためにも必要なことと考えます。

今年は広島・長崎に原爆が投下されてから80年となります。被爆者の高齢化が進む中、被ばく体験の継承と核兵器の廃絶に向けた動きが課題となります。この先も平和な未来を次世代に残せるよう、基本理念である「人の命とくらしを守る」に沿って活動していきます。

組合員活動では、食に関することを中心に暮らしに役立つ情報なども伝えていきます。

年間供給目標を20億6千万円、新規組合員加入目標1,334名に設定し、一人でも多くの組合員や地域の方に生協の考えを伝えられるよう心がけて活動していきます。

米の需要に対応できるよう作付面積の拡大や、新たな産地の開拓を進めていきます。また、新たな商品として国産小麦を使用したパンの提供も検討していきます。輸入小麦が高騰する中で国産の需要が高まっています。ポストハーベスト農薬のリスクがない安全な国産小麦を普及させ食料自給率向上の一翼となれるよう努力していきます。



今月の予定

・6/6(金)ハンガー・フリー・ワールド学習会

・6/26日(木)PFAS学習会

詳細はホームページへ



発行

なのはな生活協同組合

編集

なのはな編集委員会

千葉市稲毛区長沼原町678-2

TEL 043 (216)7087

FAX 043 (215)0510

info@nanohana-coop.or.jp

芽吹き屋

～『和菓子』の伝統文化を伝えたい～

岩手阿部製粉株式会社 営業部 菊池俊哉

「芽吹き屋」は、岩手県花巻市石鳥谷町で和菓子をつくっています。この地は、長い歴史を通じて、小麦・蕎麦といった雑穀の栽培に適した気候風土。特に花巻の稗（ヒエ）は、日本一の生産量を誇ります。もち米の名産地でもあり、隣接する紫波町で栽培される「ヒメノモチ」は、もち米の中でも質の高い品種です。これらを粉にして、練り、茹でたり焼いたり蒸したりして食べる文化が私たちの地域には息づいています。

芽吹き屋で作られる和菓子は「伝統文化」そのものです。伝統的な食べ物をつくり、食べ伝えることで、私たちは文化を繋ぎます。私たちは最良の素材を選び、伝統的な製法を守り、 unnecessaryな添加物に頼らずに、心を込めて作り続けています。また、どんなに技術を駆使しても、素材の質を超えることはできません。

当然といえば当然ですが、おいしいお菓子をつくるためには、よい原料が必要です。その「当然」が簡単ではありません。生地の原料はおおむね「米」と「水」。餡やタレもとてもシンプルです。ひとくち食べれば素材の良し悪しを直接感じます。そのため、妥協はできません。工場からより近い所からの主原料を使うこと、産地と生産者とのよい関係を保つこと。私たちの食文化は、農業という営みから生まれます。ものづくりを通じて、地域の、そして国内の第一次産業を活性化し守り繋ぐこと。それが、「芽吹き屋」の願いです。



ピースアクション2025 ～平和に関する川柳・短歌・言葉 結果発表～

なのはな生協では平和活動をピースアクションと称して様々な活動をしています。今年は被ばく80年という節目を迎えます。これを機に組合員の皆さんにご家族と平和について考えていただきたく「ピースアクション2025 平和に関する川柳・短歌・言葉」を募りました。とても多くの応募があり、皆さんの平和への想いが生協に届きました。厳選なる選考の結果、受賞した3名の作品をご紹介します。

受賞者3名には、素敵な賞品を贈呈します。おめでとうございます。

今後もなのはな生協ではピースアクションを続けてまいります。今後の活動にぜひともご協力よろしくお願いします。

最優秀賞

千羽鶴 みんなで折った 登校日 心で祈る 平和の日

東京都 ペンネーム 広島出身てる

優秀賞

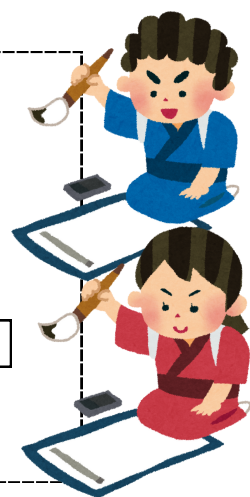
ひたすらに 戦さなき世を念じつゝ 地球は一つ 命は一つ

市川市 ペンネーム 万年青（おもと）

優秀賞

争いの ない世を願い 種を蒔く

市川市 ペンネーム おもちくん



軍都千葉と七夕空襲のお話 ～千葉で起こった悲惨な現状～

4月24日(木)千葉市生涯学習センターで行われた軍都千葉と七夕空襲のお話に参加しました。私は千葉市で生まれ育ち今も千葉市に住んでいますが、千葉市の空襲のお話を聞く機会がなかったのでとても貴重で有意義な時間になりました。「郷土千葉にまなび親しむ会」の西野則一氏からは千葉に陸軍が来ることになったいきさつから、鉄道連隊や気球連隊の仕事内容や訓練、陸軍学校についてのお話、現在よく知る場所が跡地だったり訓練が行われていたことに驚き、千葉で起きた空襲がどのあたりにどのくらいの爆弾が投下され犠牲者が出たなど数値で示してもらえたのでより具体的に想像することが出来ました。また、現在も続いているウクライナ戦争やガザ地区の話にも触れ、戦争を一度始めたら誰もやめられないという言葉が印象的でした。岡本まさ子氏は1945年7月7日に起きた千葉空襲（七夕空襲）の時、当時小学5年生だったご自身の体験談をしてくださいました。遠くでキラキラしていた焼夷弾が幾つも落ちてきたのが見えたというその場所が、私が今、住んでいるところから近くだったので驚きと恐怖を感じました。

また、友人の妹さんと先生が犠牲になったこともお話しされ「戦争は誰も幸せにしない。それは80年前も今も同じ」という言葉が心に響きました。今年は戦後80年の節目の年です。世界中の幸せを願いつつ歴史を知り今後何ができるか考えるきっかけになりました。

理事 鈴木恵美子

